

令和4年6月7日開会

令和4年第2回木曾岬町議会定例会

行政報告

町長

皆様、おはようございます。

本日は、令和4年第2回町議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様には早朝からご参集賜りまして、誠にありがとうございます。

今期定例会に上程いただきます議案は、一般会計補正予算案、条例の一部改正案など、いずれも重要な案件でございます。

何卒、慎重審議を賜りますようお願いいたします。

それでは、早速ですが、議長の許可をいただきましたので行政報告をさせていただきます。

先ずは、予てから町議会の皆さんと調整して参りましたタブレット端末導入によるペーパーレス会議。町議会としては、去る6月1日の議会運営員会から導入されましたが、本日、令和4年第2回町議会定例会開会日が本格的にスタートとなりました。執行部では、職員による庁内会議等に於いて漸次、タブレット端末の活用を始めておりますが、町政の推進に当たって常に行政と議会が両輪が如く切磋琢磨し、町民の皆様の負託に応えていかなければならないと思いを新たにした次第であります。

それでは、3年目になります新型コロナウイルス感染症についてであります。今年に入りオミクロン株に置き換わり感染力が強く爆発的に感染者が拡大し、当町においても陽性者が急増し、感染率が県下29市町中で最も高くなり、自宅療養者が最も多い日で69名となりましたが、重症化する感染者が少ない等、オミクロン株による感染状況が以前とは明らかに違っておりました。

町民の皆様のご理解やご協力のお陰で3月から4月にかけて減少し大型連休を迎えましたが、コロナ禍になって初

めて制限の無いゴールデンウィークとなり、今年の連休は大勢の皆さんが行楽等に出かけられ、各地で久しぶりに賑わいが見られ、ゆっくりと楽しまれた方々も多かったのではないかと思います。連休明けに再び感染者が増えましたが、爆発的な拡大にはならず、以降は徐々に減少しております。

当町における6月6日現在の感染者総数は県外発表を含めて394名で人口当たりの感染率は県下29市町中で最も高くなっていますが、自宅療養者は6月6日現在6名となっています。

一方、ワクチン接種について、3回目の接種者数は6月3日現在4,392名で接種率は70.9パーセントでございます。

また、4回目接種については5ヶ月以上経過した60歳以上の方と18歳以上59歳以下の基礎疾患等重症化リスクの高い方を対象とする接種計画を策定し、7月1日から接種を開始する予定で進めております。

今後とも、感染防止対策を徹底すると共に、迅速かつ適切な

実施体制の確保等、町民の皆様が安心して暮らしていただける様に万全を期して参りたいと考えておりますので、何卒、ご理解、ご協力を賜りたいと考えているところでございます。

今日まで2年以上にわたって、町の会議や行事・イベントを初め、皆様方の団体や自治会の活動等も自粛や中止が続いてきました。最近の感染状況は徐々に減少傾向にありますが、コロナ禍は、まだしばらくは収まる気配もありません。状況にもよりますが、今後は感染防止や新しい生活様式等、取り入れ、皆様のご理解やご協力をいただきながら、1日も早く、皆さんが明るく、楽しく、元気で活気のある日常を取り戻していただける様にコロナ禍を乗り越えて、其々の行事・イベントや活動等が安全に安心して開催できるように町として工夫しながら取り組んでいきたいと考えているところであります。

次に、4月24日に開催されました一見三重県知事と町長との円卓対話についてご報告させていただきます。

鈴木前知事の時代には「一対一对談」として開催されていましたが、昨年就任されました一見勝之知事は、「対話」ということを重視され、「円卓対話」と銘打って「知事と町長との円卓対話」並びに「知事と県民との円卓対話」の2本立てで企画されたものであります。

一見知事就任後、初めての機会であり、木曾岬町ならではの対話のテーマと開催場所を考え、木曾岬町は愛知県との県境地にある町として様々な課題があり、その象徴的な木曾岬干拓地で株式会社 ESR という大型物流施設が竣工を迎える絶好のタイミングであることから、知事との対話の会場として株式会社 ESR の施設を提供して頂き、木曾岬干拓地をはじめ、県境地に関わる様々な課題について、特に愛知県側との道路アクセスを主に安全で、利便性の高い一体的な地域づくりを図り、木曾岬町の未来へつなぐ議論を深め、一見知事の方針を伺ったところでもあります。

円卓対話に先立って県境・町境の決まっていない藤里港や、名古屋第3環状155号線と県道バイパス等、現場を視察していただき、その後、木曾岬干拓地に完成した物流の

ESR の 4 階ラウンジで知事と町長との円卓対話に臨みました。対話では、テーマとする「県境の町きそさき」のそれぞれの課題について 4 階ラウンジからまさに一望しながら意見交換しました。

鍋田川右岸堤防や下水門の耐震工事の推進や県境・町境問題等、県境地の町が抱える多くの課題をはじめ、木曾岬干拓地の堤防の補強やアクセス道路の早期実現等と今後の土地利用計画等、木曾岬干拓地について議論し、特に本町は名古屋港に隣接しており、近年、町道における通過車両が急増しており、更に、今後、木曾岬干拓地からの通過車両が予想される事から、県道バイパスの整備促進と愛知県側の名古屋第 3 環状 155 号線等、南北軸の道路と本町から愛知県側へアクセスする東西軸の道路等、主要道路の整備について一見知事の方針を伺い意見交換をさせていただきました。限られた時間でしたが、一見知事には、木曾岬町が抱える「県境地の町」の課題について理解を深めていただく事ができ、有意義な知事との円卓対話であったと思います。

その後、木曾岬町どてカボチャ愛好会の皆さんと一見知

事さんとの円卓対話が開催され、当日は町議会の皆さんには、傍聴いただき、終了後、ESRの最新鋭で超大型の物流施設を見学いただきました。

ESRは5月1日に操業が開始されましたが、避難施設としての協力や地域との交流等、地域貢献を考えておられ、当町としても期待をいたしているところであります。

次に、6月1日に開催されました国土交通省木曾川下流河川事務所との事業調整連絡会議についてご報告させていただきます。

この会議は、木曾川下流河川事務所と木曾岬町、双方が当該年度におけるそれぞれの事業をお互いに把握すること及び、現在、抱えている課題について要望し、回答をもとめていくことで、お互いの抱える課題を共通認識していくことで連携強化を図っていくということを目的に毎年開催されている会議でございます。

本町からは、令和4年度の主要事業について紹介させていただくとともに、木曾川左岸堤防の耐震対策や、堤防から



の浸透水対策、木曾岬干拓地河川堤防の河川整備計画への位置づけについての要望や、河川防災ステーションの沈下に伴う周辺水路への対応など 4 つの項目について要望し、意見交換をいたしました。中でも、木曾川左岸堤防の耐震工事や木曾岬干拓地河川堤防の河川整備計画への位置づけ等については、一見知事との円卓対話の機会にも課題として要望致しております。当町の防災対策に於いて、とりわけ町を守る河川堤防の耐震補強は、最優先課題であり、国への提言活動としては、其々の期成同盟会として国交省や財務省へ夏と秋に要望活動を続けています。

コロナ禍以降、各省庁とも制約がありますが、今年は特に、夏要望とは別に国会議員の先生方と国交省や内閣府へ、町独自に提言活動に注力して行きたいと考えています。

以上のことを申し上げます、行政報告と致します。